

(1) 特筆すべき教育活動の取組と成果（大学教育改革の支援プログラム（GP等）の採択状況と取組、グローバルCOE等の大型プロジェクトの採択・実施状況などを含む。）

教育に関する内容のため、該当しない。

(2) 特筆すべき研究・診療活動の取組と成果

1. 明瞭で定量的なプロジェクト採択基準の設定

専任教員及び寄附研究部門教員に加え、兼務教員によるセンタープロジェクト設置を可能とする選択基準に従い、部局横断型の研究シーズを基に外部資金を積極的に獲得し、拠点型の産学連携大型プロジェクトをセンターにおいてタイムリーに企画・設立を進めている。同時に若手研究者を育成支援するプロジェクト採択基準も併せて設定し、学内から将来有望と見られる研究者をプロジェクトリーダーとして採択し活動支援を行っている。

平成22年度は若手研究者2名（通信系、医学系）を専任として迎え、平成23年度も専任教員を採用する。

2. 新規研究プロジェクトの創設

平成19年度からの「希少金属代替材料開発プロジェクト」の成果が高く評価されており、平成24年度以降の希少金属に関する研究を創設すべく、国を含めた関係各所と協議を重ねている。また、宮城県が医療特区を目指している事もあり、医療関係のプロジェクトを創設すべく医学研究科・歯学研究科などの関係部局と打合せを重ねている。

3. 他部局での外部資金獲得支援

全学への貢献のため、NICHe以外の他部局の外部資金獲得支援にも協力している。有力研究者の紹介、関係省庁に対する紹介、申請書作成なども支援し、全学が獲得する外部資金獲得に一部ではあるが貢献している。

4. 戦略的な広報・情報収集活動

新たな研究資金の獲得と研究成果の活用を目的とした広報・情報収集活動を実施することにより、大学におけるプロジェクト企画活動に資する産業動向・研究開発動向・公募情報の蓄積・更新をしている。

5. 情報ネットワークを含めた全館のセキュリティシステムの整備

入退室管理等を実施し、セキュリティ面において産業界からの信頼を得ている。更に、情報セキュリティも常に更新に努めており、省電力にも繋がる事から継続してサーバー及びシステム更新を行っている。

6. 客観的な研究プロジェクト評価システムの確立

自己評価、書面審査、対面審査、総合審査を組み合わせた4段階の客観性を重視した外部評価方式を実施している。

(3) 特筆すべき社会貢献、国際化等の活動の取組と成果

1. 各省庁事業の管理法人業務実施による積極的な大学の地域貢献システムの確立

経済産業省及び NEDO 事業の管理法人業務を全国の大学に先駆けて受託し、大学研究シーズを新産業へ展開する積極的な大学の地域貢献システムを開発・推進している。

平成 22、23 年度は、会計スタッフの機能強化 OJT も兼ねて経産省サポイン事業等の複数プロジェクトの管理法人を受託し、地域産学連携強化に向けて活動を行っている。

2. 宮城県産業技術総合センターの支援

自動車触媒に関する Ce 削減及び代替技術プロジェクトでは、宮城県産業技術総合センターの共同研究への参画により、公設試へ高額なエンジン評価試験設備を設置することができた。触媒性能の評価にあたり、地域企業に参画を促すことにより、地域中小企業の新たな産業分野への進出可能性が高まることを期待している。

3. 産学連携本部（国際連携部）との連携

開発研究部（横山プロジェクト）において、大企業との共同研究により世界最高性能の半導体レーザーを開発することが出来た。この成果を 22 年度東北大学国際産学連携シンポジウムで東北大学における産学連携の成功事例として、産学双方の開発責任者から成功に至った連携活動のプロセスを紹介した。

(4) その他、特筆すべき活動等の取組と成果

なし